

4) やんばる環境学習

仲松由美子¹・国広潮里¹

キーワード：学校教育 総合的な学習 通年学習 出前授業 地域連携 普及啓発

1. はじめに

学校教育と連携した普及啓発事業の確立は、そこに通う児童生徒の環境保全意識の向上を図る上で重要な要素の一つである。当財団では、沖縄県内の児童生徒の地域環境への興味関心や環境保全への意識向上を図るため、平成26年度よりやんばる環境学習を展開している。

本事業では、県内北部地域の小学校や教育委員会等と連携し年に3回以上の学習を継続する「通年学習プログラム」および1～2回完結型の「短期学習プログラム（出前授業）」を、県内各地の学校を対象に展開した。

また、地域の動植物や自然環境等について調査し、その成果を活かしたプログラムを検討した。

2. 実施結果

1) 通年学習プログラム

名護市内2校および本部町内1校において、総合的な学習の時間を中心とした通年学習を実施した。

「地域」を共通テーマに、自然環境や動植物、農産業や文化について理解を深める学習を展開した。当財団職員による解説や野外活動、教職員・地域コーディネーターとの連携を通して、児童生徒の主体的な学びと探求心の育成を図った。

(1) ウミガメから学ぶ環境学習

ア) 名護市立小中一貫教育校 緑風学園

平成26年度に連携を開始した緑風学園では、複数学年にわたる学習体制が確立され、緑風学園、美ら島自然学校、学区内の河川や海岸等を学習の場として活用した。学習内容は、3年生「ウミガメ」、4年生「川の生き物と環境」、5年生「地域の食」とし、地域の環境や文化を体系的に学ぶ構成とした。3年生では、沖縄美ら海水族館で繁殖したウミガメ個体を用いた生態学習や飼育体験、ビーチクリーン活動（写真-1）を行い、命の大切さや海洋ゴミ問題について理解を深めた。4年生では、汀間川の中上流域および河口域で生きもの調査（写真-2）を実施し、計43種類を確認、解説パネルとしてまとめた。学習成果は、緑風ふるさと学習発表会や本部町内小学校との合同発表会で発表し、一部は美ら島自然学校や海洋博公園で展示を予定している。



写真-1 ビーチクリーン活動（3年生）



写真-2 中上流域の生きもの調査（4年生）

イ) 名護市立名護小学校

名護小学校では、3年生向けに毎年4回の授業を実施している。今年度は、①イノー（サンゴ礁で囲まれた浅瀬）に棲む生きもの話、②ウミガメの基本的な話、③ウミガメの観察（美ら島自然学校）、④ウミガメと環境の話を実施した。ウミガメの観察は昨年度に引き続き、美ら島自然学校と嘉陽海岸にて実施した（写真-3）。



写真-3 嘉陽海岸での産卵体験

¹ 普及開発課

ウ) 本部町立上本部学園

既存の3年生向け「ウミガメから学ぶ環境学習」を基盤に、4年生では「地域の農業と自然」をテーマとした学習を実施した。海洋博公園内（ハーブ見本区横の畑）を実習地とし、普通種と在来種3種類の野菜（ダイコン・ニンジン・ネギ）による比較栽培体験を行った。昨年度は在来種ダイコンが害虫被害により収穫に至らなかったが、今年度は管理作業を強化したことで収穫が可能となった。これらの活動を通じて、植物の生育環境への理解を深めるとともに、農業への関心を高めることができた（写真-4）。



写真-4 左：屋部ダイコン 右：青首ダイコン

2) 短期学習プログラム（出前授業）

地域の環境や動植物および文化に対する興味関心を引き出すことを目的に、1～2回完結型の短期学習プログラム（出前授業）を、県内の小中学校および高等学校、県外高校の31校（前年比147.6%）より依頼を受け実施した。学習テーマはウミガメや野生植物のほか、海洋博公園内を活用した虫さがしや地域自然を活用した蝶の観察会などがあった（写真-5）。



写真-5 海洋博公園内での虫さがし

3) 地域の動植物等の調査について

美ら島自然学校周辺で確認される野鳥観察を継続し、留鳥23種、夏鳥2種、冬鳥19種、旅鳥3種を確認した。また、嘉陽海岸における漂着ペットボトル調査（写真-6）を実施し、調査結果は出前授業等で使用した。地域の伝統行事調査では、安部区や嘉陽区で行われたのべ9件の伝統行事に参加し調査を行った。



写真-6 漂着ペットボトル調査

3. 成果の公表

野鳥観察で記録した種類について、美ら島自然学校のブログを毎月、教室Bで展示している野鳥掲示板と野鳥図鑑の内容を随時更新し、来校者への案内に活用した（写真-7）。

また、「地域の川」をテーマに学習した緑風学園4年生の成果として、観察できた生きものの解説パネルを作成し、美ら島自然学校で展示した（写真-7）。展示物は自然学校への来校者に対して公開、財団と地域の学校連携事業や地域の自然環境について普及することができた。

また、本事業は学習プログラムの開発を兼ねており、今後も各学校等で行った事業の効果や手法の検討を進めていく。



写真-7 野鳥掲示板（美ら島自然学校）

4. 外部評価委員会コメント

地域に最も必要な事業であり、それに対してよく対応している。ただし、伝統文化の調査結果については、もう少し詳細な報告が欲しい。安部や嘉陽以外にも国頭や大宜味、名護の一部はこれまでの調査が多くはなく、体系的な調査と記録が必要だと考える。一度、専門家の話を聞くのが望ましい。

（亀崎顧問：岡山理科大学教授）